

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩  
2019年度 事業報告書

1. 事業計画名	第 I 事業 大学間連携事業				
2. 事業名	単位互換(産学連携科目)				
3. 事業趣旨	<p>ネットワーク多摩に加盟する大学・短大に所属する学生が、他の大学・短大の科目を履修し、そこで取得した単位が自大学の単位として認定されされる制度である。 本年度は各加盟大学の授業科目において、単位互換の要件を有する講座を学生が相互に受講する形で実施した。</p>				
4. 事業内容・実績	<p><b>【実施内容】</b></p> <p>2019年度は昨年度より2大学増加し、6大学で単位互換講座が提供され、講座数は81講座であった。</p> <p>大妻女子大学: 7 講座 多摩大学: 2講座 玉川大学: 4講座 帝京大学: 14講座 明星大学: 21講座 和光大学: 33講座</p> <p><b>【履修状況】</b></p> <p>前期: 和光大学にて1名(玉川大学生) 後期: 大妻女子大学にて1名(玉川大学生)</p>				
5. 評価	<p>学生にとっては、所属大学(または自宅)から単位互換開講大学への交通費用と時間ロス(単位互換授業の前後の授業が受けられない)のマイナス要因が避けられない根本的課題がある。こうした問題解決のため、近隣大学間で単位互換授業の提携している大学も少なくなない。 引き続き、加盟大学へはより多くの単位互換授業の提供を依頼し、各大学生への周知を徹底していく。</p>				
6. 執行体制	大学部会、加盟大学担当者、事務局				
7. 事業収支(単位:円)		計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	0	
	支出	23,000	14,590	△ 8,410	
	収支	△ 23,000	△ 14,590	8,410	

**公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩**  
**2019年度 事業報告書**

1. 事業計画名	第 I 事業 大学間連携事業				
2. 事業名	多摩未来奨学金				
3. 事業趣旨	<p>多摩地域の企業・団体等からの寄附金を原資とし、加盟大学等の学生を対象とした給付型の奨学金制度で、ネットワーク多摩の主力事業のひとつである。全国的に稀有な事例として大きく注目を受け、文部科学省の経常費補助金特別補助の対象となっている。奨学生はネットワーク多摩の地域活性化事業への参加を通して、多摩地域の企業・団体等に接することからキャリア教育の一環にもなりスキルアップが図られる。大学にとっても有為な人材を社会に送り出す手立てとなることを目指している。</p> <p>また、理工系大学院向けに修学支援および学会発表等の研究助成をする奨学金を給付する。</p>				
4. 事業内容・実績	<p>多摩未来奨学金は家計収入600万以下を目安とし、採用条件はGPA3.0以上で募集。下述するネットワーク多摩のイベントに参加させ、2020年3月28日に修了式を行う予定。</p> <p>また、理工系大学院向けに修学支援および学会発表等の研究助成をする奨学金を12月に給付。</p> <p>■ 多摩未来奨学生6期生(11大学20名)          桜美林大学(2)、大妻女子大学(1)、恵泉女子学園大学(1)、首都大学東京(1)、創価大学(2)、拓殖大学(2)、多摩大学(1)、玉川大学(1)、中央大学(1)、帝京大学(6)、東京経済(2)</p> <p>【奨学生の参加イベント】          2019. 6. 7 ベネッセコーポレーション東京本部 「6期生ガイダンス」及び翌日準備          2019. 6. 8 ベネッセコーポレーション東京本部・          「多摩未来奨学金交付式」、「多摩未来創造フォーラム」          2019. 8. 23 明星大学・「多摩未来奨学生とのつどい」で寄附企業との交流          2019. 11. 9 明星大学・「ねっ多摩フェス2019」          2019. 11. 27 立川子ども未来センター・「政策スクール2019」          2019. 12. 13 明星大学・「まちづくり・ものづくりコンペティション2019」          中止 明星大学・「奨学金6期生修了式」→(新型コロナウイルスの影響で中止)</p> <p>【募集から採用までの経緯】          応募期間： 2019年3月1日～5月7日(応募学生数：13大学33名)          1次選考(書類)：合格者12大学22名          2次選考(面接)：5/25・合格者12大学22名          採用者： 11大学20名(8月2大学2名辞退)          審査組織： 多摩未来奨学金審査委員会(11名)</p> <p>■ 多摩未来奨学生/サイエンス1期生(1大学1名)          募集9/16-10/31(11/14迄延長) 応募8名、12/5・面接1名、採用1名：創価大学(1)          ※2020.8までに報告書を提出。</p>				
5. 評価	<p>大学部会で奨学金事業について大学担当者へ説明することと併せホームページで情報周知を行った結果、応募大学は前年度の8大学から13大学に増加、応募人数も22名から33名の増加となったが、2019年度から応募者を増やすために募集要件で非加盟大学、短期大学、高等専門学校についての条件を追加したが、こちらの応募者はなかった。</p> <p>以上のことを踏まえて2020年度については、加盟機関(加盟申込中を含む)のみを対象とすることに戻し、採用大学の偏りを減らし多くの加盟機関からの参加を促すため、大学等毎に推薦枠(3件迄)・採用枠の上限数を設けることに変更する。正会員3件・協賛会員1件を採用上限数とする。また、多摩未来奨学金/サイエンスについては、常任幹事会等で検討を重ね、1名の採用や規程の整備も完了(12月承認)できたので、2020年度は新たな柱として展開したい。</p>				
6. 執行体制	多摩未来奨学金審査委員会(11名)、多摩未来奨学金/サイエンス審査委員会(8名)、事務局				
7. 事業収支(単位：円)		計画	実績	差額	備考
	繰越金	6,383,279	6,383,279	0	
	収入	6,950,000	6,507,114	△ 442,886	補助金：1,000,000円
	支出	6,950,000	6,507,114	△ 442,886	6期生 奨学金給付額6,000,000円
	合計	6,383,279	6,383,279	0	

**公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩**  
**2019年度 事業報告書**

1. 事業計画名	第 I 事業 大学間連携事業				
2. 事業名	就職支援事業				
3. 事業趣旨	大学の未内定卒業生が社会問題となる中、多摩地域中小企業に就職する割合はわずか4%で、残りの96%は都内の企業に就職をしている状況にある。この問題を解消するために、学生と多摩の企業がお互いに知り合える出会いの場として「ねっ多摩フェス」を開催実施。就職説明会の案内、インターンシップ支援やワークプレイスメントの推進を行う。				
4. 事業内容・実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆インターンシップ支援 社会へ出ることの意義を基軸とした授業及び就業体験の実施</li> <li>◆ワークプレイスメントの実施 学生情報センターと連携して有償型就業体験制度の実施。 同社が運営するWeb上のインターンシップスカウトの提供開始。</li> <li>◆就業力アップ支援の実施 (一社)立飛総合研究所から受託した立飛プロジェクト(スポーツビジネスの可能性と課題解決)の実証的調査業務を学生も含めて調査、分析、報告書作成まで行うことにより就業力を養う。</li> <li>◆「ねっ多摩フェス」開催 多摩地域の優良企業を知ってもらう出会いの場として、多摩地域の企業がブースを設置し、学生も企業も気楽に話し合える企画。 最終的には多摩地域企業への人材採用に繋げていくことを目的とする。 開催日時：11月9日(土) 10:00～16:00 開催場所：明星大学22号館(大学会館)3階大ホール 参加学生：28名 参加企業：21社</li> <li>◆就職説明会の周知 (公財)東京しごと財団開催の就職説明会への後援の実施 4月10日 京王プラザホテル八王子 5月 9日 立川グランドホテル 6月24日 京王プラザホテル八王子 9月 4日 京王プラザホテル八王子 1月29日 立川グランドホテル 3月16日 立川グランドホテル</li> </ul>				
5. 評価	多摩地域への企業採用状況は深刻な問題であり、就職支援事業としての成果活動は十分であるとはいえない状況であった。 多摩地域の優良企業と大学との密な連携強化を図り事業活性化を図っていく必要がある。				
6. 執行体制	㈱学生情報センター、ネットワーク多摩				
7. 事業収支 (単位：円)	\	計画	実績	差異	備考
	収入	0	9,900,000	9,900,000	
	支出	84,000	9,654,293	9,570,293	
	収支	△ 84,000	245,707	329,707	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩  
2019年度 事業報告書

1. 事業計画名	第 I 事業 大学間連携事業				
2. 事業名	学生生活支援事業				
3. 事業趣旨	<p>新入生・在校生を対象とした下記事業をネットワーク多摩ホームページ上で告知。加盟大学からのご要請に応じてオープンキャンパス開催時や合格発表後の時期に合わせて、学内に相談ブースを設営。住まい・アルバイト・多摩地域の生活情報等を提供する。</p>				
4. 事業内容・実績	<p>一人暮らしのトータルケア事業</p> <p>◆事業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 住居情報の提供</li> <li>2. 加盟行政が提供する地域生活情報</li> <li>3. 学校情報やアルバイトのアドバイス</li> </ol> <p>◆実績</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①住居情報の提供 決定件数・・・9大学88件（2020年3月31日現在）</li> <li>②地域生活情報、学校やアルバイト情報の提供 一人暮らし学内相談会・・・5大学延べ10回 （2019年12月31日まで） 3大学延べ33回 （2020年1月1日～3月31日まで）</li> </ol>				
5. 評価	<p>新型コロナウイルスの影響に伴い、一般受験合格者向けの一人暮らし学内相談会会場では、マスク着用・来場時にはアルコール消毒液による消毒を徹底。 3月以降は感染リスクを避けるため、相談会開催を中止する会場も発生。 また、各大学の入学延期に伴い契約キャンセルが増加。 4月以降に住まい探しする新入生が増加する。</p>				
6. 執行体制	<p>(株)学生情報センター、事務局</p>				
7. 事業収支（単位：円）	\	計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	0	
	支出	3,000	0	△ 3,000	
	収支	△ 3,000	0	3,000	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩  
2019年度 事業報告書

1. 事業計画名	第 I 事業 大学間連携事業				
2. 事業名	第6回多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2019				
3. 事業趣旨	本コンペティションは、学生の視点や感性を活かし多摩地域の魅力や課題をフィールドワークを通じてプレゼン形式で学生団体が行う。学生団体と企業・行政との連携共同研究により多摩地域活性化に繋げる。これが最大の狙いです。				
4. 事業内容・実績	<p>◆参加資格 教員の指導下で活動するゼミ団体、個人グループ。          ・申 込 8大学16団体          ・応募テーマ 学生アイデアによる地域活性化プロジェクト</p> <p>◆選考会          ・日 程 12月14日（土）明星大学          ・審査委員 大学教授、自治体、企業役員 20名。          ・参加数 学生・教員を含む約150人が参加した。</p> <p>・最優秀賞 創価大学 安田ゼミ OMNIBUS（オムニバス）（八王子）          「外国人技能実習生の日本語能力向上を促進！～Japanative Project～」</p> <p>・優秀賞 創価大学 安田ゼミ Amor（八王子）          「誰もが地域とつながりを持てる社会へ」          創価女子短期大学 水元研究室ショウガールズ（八王子）          「八王子ショウガでHOTなスイーツを」</p> <p>・奨励賞 帝京大学 湯川ゼミ 防災班（八王子）          「遊びながら学ぼう！八王子の防災」          法政大学水野研究室チームシビックプライド（八王子）          「子ども達とともに育てるシビックプライド」</p> <p>・ポスター賞 創価大学 安田ゼミ Amor（八王子）</p>				
5. 評価	<p>昨年度の11大学33団体から8大学16団体と参加大学数、団体数ともに減少した。その要因は、選考会（9月）本選（12月）の2回開催から、12月の1回開催に変更し、大学団体のプロジェクト行事との関係で出場出来なかったことである。また、毎年5月に開催していた説明会が7月に行ったことも減少した要因と考えられる。今回から新しくポスター審査を追加し参加者全員で人気投票できる追加審査を行った。</p> <p>出場団体は減少したが、参加学生が最後の表彰式懇親会まで残っていた事で、学生と企業担当者との懇親が図れたことは評価できる内容であった。</p>				
6. 執行体制	<p>主催：ネットワーク多摩事務局          後援：立川市、八王子市、日野市、小金井市、福生市、町田市、多摩市、国立市、          東京市町村自治調査会、首都圏産業活性化協会</p>				
7. 事業収支（単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	500,000	0	△ 500,000	
	支出	672,000	477,912	△ 194,088	
	収支	△ 172,000	△ 477,912	△ 305,912	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩  
2019度 事業報告書

1. 事業計画名	第 I 事業 大学間連携事業				
2. 事業名	全国大学コンソーシアムの展開				
3. 事業趣旨	全国大学コンソーシアム協議会の研究フォーラムに参加し、交流、情報交換、参考事例の収集を行い、本法人の周知と事業活動を紹介する。				
4. 事業内容・実績	<p>◆全国大学コンソーシアム協議会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年5月18日 第1回運営委員会（大学コンソーシアム京都）</li> <li>・2019年8月31日、9月1日 第16回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム （熊本学園大学） テーマ「大学コンソーシアムとともに始まる大学づくり」 プレイベント：「大学コンソーシアムの運営における課題とその解決に向けて」 ～課題から紐解くコンソーシアム組織のあり方～ 基調講演：「大学コンソーシアムとキャンパスアジアの可能性」 姜 尚中氏（熊本県立劇場 館長） シンポジウム：「大学コンソーシアムとともに始まる大学づくり」 甲斐隆博氏（熊本経済同友会代表幹事） 小野泰輔氏（熊本県副知事） 中山峰男氏（崇城大学学長） 半藤英明氏（大学コンソーシアム熊本代表理事） 文教行政報告：「高等教育政策の動向について」 三浦和幸氏（文部科学省高等教育局大学振興課長） 分科会1. 「大学コンソーシアムにおけるFD・SD研修」 2. 「障がい学生支援と大学コンソーシアム」 3. 「危機管理と大学の地域貢献～震災対応を事例として～」 4. 「人・大学・まちの成長、発展に繋げる大学コンソーシアムの活動とは」 5. 「地域活性化人材をどう育成するか」 研究フォーラムへは全国から297名、分科会へは158名が参加した。 ネットワーク多摩では、第5分科会を担当した。（参加者27名） 報告者：細野助博氏（専務理事 中央大学名誉教授） 富野暉一郎氏（福知山公立大学 副学長） 木村治生氏（ベネッセ教育総合研究所 高等教育研究室長） コーディネーター：細野助博（専務理事 中央大学名誉教授）</li> <li>・2019年8月31日 総会（熊本学園大学）</li> <li>・2019年9月1日 第2回運営委員会（熊本学園大学）</li> <li>・2020年2月15日 第3回運営委員会（関西大学）</li> </ul>				
5. 評価	プレイベントで行ったコンソーシアムが今後直面する課題を分科会で取り上げ、全国のコンソーシアムが情報共有し役立てていきたい。 今後も本法人の取り組みの紹介や、全国の大学コンソーシアムにおける事例の情報収集を行い、本法人の活動に活かしていく。				
6. 執行体制	全国大学コンソーシアム協議会幹事（小川会長）、運営委員（森岡事務局長）、事務局				
7. 事業収支（単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	150,000	165,000	15,000	全国大学コンソーシアム協議会 交通費補助
	支出	390,000	462,210	72,210	
	収支	△ 240,000	△ 297,210	△ 57,210	

**公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩**  
**2019度 事業報告書**

1. 事業計画名	第 I 事業 大学間連携事業				
2. 事業名	多摩未来創造フォーラム (第9回多摩地域大学理事長・学長会議)				
3. 事業趣旨	第9回目の開催となる多摩地域の理事長・学長会議・多摩未来創造フォーラムのテーマを「スポーツをめぐる教育とビジネス」として開催した。 今後、多摩地域に根付く産業、教育、行政機関が一体となり、多摩地域に集積された知を最大限に活用して、将来の多摩地域を探る機会とするものである。				
4. 事業内容・実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆会議名 多摩未来創造フォーラム 第9回多摩地域大学理事長・学長会議</li> <li>◆開催日 2019年6月9日(日) 13:00~17:30</li> <li>◆場所 ベネッセコーポレーション東京本部ビル13階大会議場</li> <li>◆来場数 149名</li> <li>◆講演 I 池田 純氏 (株)横浜DeNAベイスターズ初代表取締役社長 「地域を元気にするスポーツの力」</li> <li>◆講演 II 齋藤 福栄氏 スポーツ庁スポーツ総括官 「スポーツ：教育とビジネスとのコラボのあり方を考える」</li> <li>◆パネルディスカッション「スポーツ・教育とビジネスのコラボレーション」 コーディネーター：小林 勉氏 (中央大学総合政策学部教授) パネリスト：大日方 邦子氏 (日本障害者スキー連盟常任理事・強化本部長、 日本パラリンピアンズ協会副会長) 山本 浩氏 (法政大学スポーツ健康学部教授) 間野 義之氏 (スポーツビジネス研究所長)</li> </ul>				
5. 評価	基調講演では、(株)横浜DeNAベイスターズ初代表取締役社長 池田純氏による「地域を元気にするスポーツの力」とスポーツ庁スポーツ総括官齋藤福栄氏による「スポーツ：教育とビジネスとのコラボのあり方を考える」と題しまして2講演を行った。 池田純氏の講演では、スポーツを通じた多摩地域活性化の課題や現状、齋藤福栄氏からはスポーツ基本計画、スポーツを通じた活性化の事例についての内容であった。 当日は約149名の来場があり、パネルディスカッションではスポーツ研究の教授を迎えて、スポーツによる多摩地域活性化への現状と課題について議論を交わした。				
6. 執行体制	ネットワーク多摩事務局				
7. 事業収支 (単位：円)		計画	実績	差異	備考
	収入	0	269,000	269,000	
	支出	533,500	319,350	△ 214,150	
	収支	△ 533,500	△ 50,350	483,150	

**公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩**  
**2019年度 事業報告書**

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域人材育成と教育力アップ事業				
2. 事業名	多摩シビックプライド (旧「知のミュージアム 多摩・武蔵野検定」)				
3. 事業趣旨	多摩地域への愛着と定着の促進する方法として幼少から多摩の魅力を学び、多摩地域の活性化を担う人材育成を図る。				
4. 事業内容・実績	<p>昨年度に引き続き立川市教育委員会との連携により、公立小中学校で「みんなで知ろうタマプラ問題ES」、「みんなで知ろうタマプラ問題MS」の検定を実施した。採点の正確さと効率化のため、回答にはマークシートとプログラムによる自動採点方式を採用している。実施内容は以下の通りである。</p> <p>受講問題：みんなで知ろうタマプラ問題ES(小学校:Elementary School)          みんなで知ろうタマプラ問題MS(中学校:Middle School)</p> <p>結果：ゴールド賞(71点以上)シルバー賞(41～70点)ブロンズ賞(40～0点)</p> <p>返却物：検定結果一覧(学年全体)、検定結果一覧(学級別)、          検定結果(生徒宛)、入賞カード(生徒宛)</p> <p><b>【実施の流れ】</b></p> <p>①前年度、教育委員会と打ち合わせ行い解答用紙を預ける。          ②教育委員会から各学期ごとに実施校へ問題・解答用紙を配付し検定を実施          ③各実施校からネットワーク多摩へ受験者データと解答用紙の送付          ④解答到着後、採点を行い3～7日程度で各学校へ結果用紙等を送付          ⑤ネットワーク多摩から教育委員会へ結果集計を半期程度で連絡</p> <p><b>【小学校5年生ES】</b>          実施学校数：19校 ・学級数：44学級 受験者数：1,399人          (ゴールド賞：820人 ・シルバー賞：555人・ブロンズ賞：24人)</p> <p><b>【中学校1年生MS】</b>          実施学校数：8校 ・学級数：34学級 受験者数：974人          (ゴールド賞：334人 ・シルバー賞：621人・ブロンズ賞：19人)</p> <p>※3月実施予定だった中学校1校が新型コロナウイルス感染症の影響で休校となり中止。</p>				
5. 評価	立川市では教育委員会の協力で公立小中学校で郷土愛を醸成する方法として継続して実施され認知度も上がってきた。他の多摩地域の公立小学校でも実施して各市町村の活性化を担う人材づくりを目指していたが、この事業での収入が見込めず立川市以外へ展開も厳しい為、2020年度は休止とする。 なお、2020年度は昨年度の出題した問題を使用し、立川市教育委員会で独自に実施する。				
6. 執行体制	主催：ネットワーク多摩 後援：東京都、多摩地域28市町村 協力：立川市教育委員会、 スキャネット株式会社(マークシートを特別価格で購入)				
7. 事業収支(単位：円)	計画	実績	差異	備考	
	収入	0	0	0	
	支出	93,000	58,232	△ 34,768	
	収支	△ 93,000	△ 58,232	34,768	

**公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩**  
**2019年度 事業報告書**

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域人材育成と教育力アップ事業																			
2. 事業名	多摩地域行政連携事業「政策スクール2019」																			
3. 事業趣旨	<p>政策スクールの趣旨は行政間との連携促進を前提として共通課題の検討と処方箋を作成する「政策スクール」を開校することで、多摩地域の行政領域の人材育成に繋げていくことが趣旨である。</p> <p>「政策スクール」は人材の育成を通じて、行政間の連携や課題解決に繋げる必要がある。しかし、この認識が十分でないことも現状としてあるが、「政策スクール」を毎年開催することで共通認識が開けることを目指したい。</p>																			
4. 事業内容・実績	<p>■ 開催日 2019年11月27日（水）</p> <p>■ 会場 立川市子ども未来センター 2階会議室（立川市錦町3丁目2番26号）</p> <p>■ 時間 14:00～17:00</p> <p>■ テーマ 「スポーツコミュニティー創造にむけた官民学連携」 ～2020オリ・パラのレガシーを受け継いで～</p> <p>■ パネルディスカッション</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">①大学スポーツ資源の地域への還元</td> <td style="width: 30%;">関根 正敏氏</td> </tr> <tr> <td>②福祉・医療とスポーツ</td> <td>笹原 潤氏</td> </tr> <tr> <td>③初等中等教育スポーツを通じた大学との連携</td> <td>樋口 修資氏</td> </tr> <tr> <td>④公共施設とスポーツインフラを活用した広域連携</td> <td>花坂 健介氏</td> </tr> </table> <p>■ コーディネーター</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">中央大学商学部 准教授</td> <td style="width: 30%;">関根 正敏氏 (コーディネーター)</td> </tr> <tr> <td>帝京大学スポーツ医科学クリニック医長</td> <td>笹原 潤氏 (パネリスト)</td> </tr> <tr> <td>明星大学教育学部長・教授</td> <td>樋口 修資氏 (パネリスト)</td> </tr> <tr> <td>八王子市教育委員会生涯学習スポーツ部</td> <td>スポーツ振興課主任 花坂 健介氏 (パネリスト)</td> </tr> </table> <p>■ 参加数 45名</p> <p>■ 参加者 自治体職員、学生、企業担当者、大学教職員、一般</p> <p>■ 主催 公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩</p>				①大学スポーツ資源の地域への還元	関根 正敏氏	②福祉・医療とスポーツ	笹原 潤氏	③初等中等教育スポーツを通じた大学との連携	樋口 修資氏	④公共施設とスポーツインフラを活用した広域連携	花坂 健介氏	中央大学商学部 准教授	関根 正敏氏 (コーディネーター)	帝京大学スポーツ医科学クリニック医長	笹原 潤氏 (パネリスト)	明星大学教育学部長・教授	樋口 修資氏 (パネリスト)	八王子市教育委員会生涯学習スポーツ部	スポーツ振興課主任 花坂 健介氏 (パネリスト)
①大学スポーツ資源の地域への還元	関根 正敏氏																			
②福祉・医療とスポーツ	笹原 潤氏																			
③初等中等教育スポーツを通じた大学との連携	樋口 修資氏																			
④公共施設とスポーツインフラを活用した広域連携	花坂 健介氏																			
中央大学商学部 准教授	関根 正敏氏 (コーディネーター)																			
帝京大学スポーツ医科学クリニック医長	笹原 潤氏 (パネリスト)																			
明星大学教育学部長・教授	樋口 修資氏 (パネリスト)																			
八王子市教育委員会生涯学習スポーツ部	スポーツ振興課主任 花坂 健介氏 (パネリスト)																			
5. 評価	<p>政策スクールでは、スポーツコミュニティー創造にむけた官民学連携という事で、それぞれの専門家よりスポーツを通じた連携の課題や、スポーツと医療、スポーツイベント実施内容事例、コミュニティー形成の手法などが議論された。</p> <p>参加者からは大変有意義な意見交換が出来たなど多くの声を頂く事ができ、充実したイベントであった。</p>																			
6. 執行体制	ネットワーク多摩事務局																			
7. 事業収支（単位：円）	計画	実績	差異	備考																
	収入	0	0	0																
	支出	15,000	73,319	58,319																
	収支	△ 15,000	△ 73,319	△ 58,319																

**公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩**  
**2019年度 事業報告書**

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域人材育成と教育力アップ事業				
2. 事業名	新任大学教員研修				
3. 事業趣旨	<p>大学入試改革と呼応して、従来は一方的な知識の伝達・注入に偏りがちだった高校や大学での学びに「生徒・学生が主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し解を見出していくアクティブ・ラーニング」の導入が求められています。本セミナーでは、参加者及び講師との交流を通してアクティブ・ラーニングを体験的に学び、それぞれの教育実践につなげることを目的としている。</p>				
4. 事業内容・実績	<p>◆新任教員研修セミナー</p> <p>実施日：2019年9月2日(月)～4日(水)          場 所：大学セミナーハウス</p> <p>【セッション1】          アクティブ・ラーニングに向けた関係性作り          SPAファシリテータ 佐藤順子氏</p> <p>【セッション2】          相互理解を深め、人間関係を築くコミュニケーション・ワーク          東京女子医科大学看護学部准教授 諏訪茂樹氏</p> <p>【セッション3】          大学生の育った環境、受けてきた教育―「高大接続」の視点から―          東京農工大学グローバル教育院教授 藤井恒人氏</p> <p>【セッション4】          アクティブ・ラーニングの理論と実際          明星大学明星教育センター特任准教授 福山佑樹氏</p> <p>【セッション5】          アクティブ・ラーニングを機能させるための半期の授業設計・1コマの授業計画          芝浦工業大学教育イノベーション推進センター教授 榎原暢久氏</p> <p>【セッション6】          多様性が活きる学びを目指して          明星大学副学長・人文学部教授 菊地滋夫氏</p> <p>【セッション7】          「わかる」を深め「考える」を育む反転授業の基本          首都大学東京大学教育センター准教授 伏木田稚子氏</p> <p>参加者：14大学 29名</p>				
5. 評価	<p>学生たちが主体性を持って学ぶアクティブ・ラーニングをいかにして実現してゆくか、その方法論について熱意溢れる議論が展開された。欧米諸国の学生たちが極めて个性的で問題意識をしっかり持っているのに比して、内向的で積極性に欠けると言われる日本の学生たちにその習慣をきちんとしてもらえるかどうかで、これから長い教員生活を送る皆さんにとっては避けることのできない大きなテーマである。基礎的学問の重視、尊重をどう考え、目先の成功だけを狙い、費用対効果ばかり気にする、利益一辺倒の企業経営者の発想が、今後の日本の大学教育にどのような影響を及ぼすかを考える良い研修となった。</p>				
6. 執行体制	<p>主催：公益財団法人大学セミナーハウス          共催：公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩</p>				
7. 事業収支 (単位：円)	\	計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	0	
	支出	0	0	0	
	収支	0	0	0	